

大志を育む



令和7年9月26日
(教職員向け)
教育委員会だより
No. 66

発行：北広島市教育委員会

「探究的な学び」で子どもたちに「人生を舵取りする力」を付けよう！ 「情報活用能力」と一体的に追究してみませんか？

教育部理事 鹿野 秀一

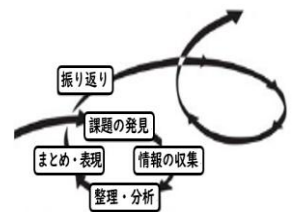
現在、次期学習指導要領の改訂（令和12年度小学校全面実施）に向けて議論が始まっています。私たちはその動向に注視し、「どんな教育を創り、進めていくべきなのか」を探っていかなければなりません。

これからの社会を担う子どもたちは、激しい変化が止まることがない時代を生きることになります。生成AIがさらに発展し、人間の意思が一層重要になる時代に向け、思考や行動・好奇心の芽を大切にするとともに、他者との対話や協働、自己調整を通じて「好き」や「得意」を伸ばし、夢や希望を育てていくこと。その実現のために、生涯にわたって「主体的に学び続け、自分の人生を舵取りする力」を身に付けることの重要性が増しています。その具体の方策として、1人1台端末等ICTを効果的に活用しながら、「自ら課題を見つけ、解決することを繰り返す」すなわち「探究的な学び」を充実させていくことが挙げられています。

総合を中核とした「探究的な学び」は、自分で課題を見つけて、情報を集めて分析し、他者と協働しながら答えを導き出し、それらをまとめて発表・発信するという一連の活動を通して、自己の生き方や在り方を考えていくものです。その充実は、思考力・判断力・表現力のみならず、「学びに向かう力・人間性」等の涵養に大きな役割を果たします。

その際、様々な課題解決に情報技術の活用が不可欠になってきたことを踏まえ、デジタル学習基盤を機能させ、情報技術を自由自在に活用し、探究プロセスを自ら駆動できるようにすることも重要になります。

これらを実現するために、各学校においては、ICTと探究的な学びの一体的な充実を意識した教育活動を追究しつつ、「総合的な学習の時間」における調査・探究活動を改めて見直すとともに、特に「大志学」のねらいや全体計画・年間指導計画等について、再構築していく必要があるのではないかと思います。



「こんなことはできないかな？」

- 「大志学」の探究テーマとして「将来必要とされる職業と自分」「まちの魅力発信」「まちづくりの提言」「環境問題を考える」…など多岐にわたる選択肢を設け、子ども個々が自分なりの課題を見つけて探究する。
- 情報の収集のみで終わることなく、データを分析するとともに、グループや学級集団等での協議を通してブラッシュアップし、自分(自分たち)の考えとしてまとめ、発表・発信につなげる。
- 発表や発信は学校内にとどめず、地域や世界等に発信する機会を作ることで、子どもたちのモチベーションを高めたり、表現力の向上につなげたりすることができる(市内でそのような場を作ることも可能)。
- ◆例として…「まちの魅力発信」で、北広島の何・どこを魅力として発信したいかを個人が決定し、情報収集により魅力を整理し、世界に発信するコマースを作成する。その際、生成AI等を活用し、英語表記での映像を作成することで英語教育にもつなげる。さらに、各機関の許可を取り、実際にSNSなどで発信できたらすごい！

次期学習指導要領で考えられている探究的な学びの基盤となる情報活用能力の整理

小学校段階…体験的な活動を重視し、「①活用」を中核としながら、「②適切な取扱」、「③特性の理解」と相まって培う	小学校【総合・情報の領域(仮称)】	中学校【新・技術分野(仮称)】	高等学校【情報科】	
中学校段階以降…各要素の内容を深めつつ、より抽象的・科学的な理解を必要とする「③特性の理解」を一層重視	低学年 <ul style="list-style-type: none">◆写真・動画を撮影する◆ルールを守って大切に(活用を通して体験的に学ぶ)	中・高学年 <ul style="list-style-type: none">◆インターネット等で情報収集する◆表やグラフを作成し整理・分析する◆スライドを見やすく工夫して表現する◆メディアによって、得られる情報や印象が異なることを知る◆インターネットの危険性や、情報セキュリティの基本を知る◆クラウドを用いて共同編集する仕組みを知る◆プログラミングを体験したり、生成AIの出力から特性を知る	<ul style="list-style-type: none">◆アンケート結果やセンサで得たデータを集計・分析する◆メディアごとの特性や、どのような情報が伝わりやすいのかを考えながらレイアウトなどを決める◆情報がどのように加工され伝わり影響を与えるのか、メディアを比較しながら理解する◆多様なセキュリティ対策・対応を学ぶ◆自他の権利や法を理解し、適切に情報を扱う◆情報処理の仕組みやコンピュータの構成、生成AI等の基本的な仕組みを理解する◆身近な課題を解決するプログラムを製作する	小中学校で整理した系統性を踏まえ、情報化の内容をさらに充実する方向で検討

子どもたちがワクワクしながら、課題を解決していく学びをみんなで作っていきましょう！



1. 東部中学校区 小中一貫教育のあゆみ

平成29年度より校区一体となって取り組んできた東部スタンダード(挨拶・準備・思いやり)が浸透し、日常のあらゆる教育活動を支えている。東部スタンダードを基盤にして、東部中へのスムーズな橋渡しを2小で連携して取り組み、東部中学校区の子どもの「学び」と「育ち」を支えている。

東部中学校区で目指す「夢をかなえるため 学んだことをもとに 自分の言葉で堂々と語れる姿」という15歳の子ども像を校区の全教職員で共有し、職員一丸となって児童・生徒の指導にあたっている。

2. 小4・中2合同体育(バレーボール)

東部中学校区では、2年前までは小5・中2の合同体育として空手道を実施していた。合同授業を実施できる学年を小4にも広げたいことや、小学校体育においてバレーボールの基本的な技能の定着が課題であることにも注目し、小4・中2の合同体育を昨年度より実施することとした。

合同授業を行う準備段階では、小学4年生の体育の授業を動画撮影し、その映像を中学2年生が視聴して小学生の実態を把握する。その上で、小4の技能を高めるための練習方法や、その成果を確かめるゲームのルール工夫などをグループごとに検討した。



実際の合同授業の際には、中学生がリーダーシップを発揮して小学生と関わり、思いやりのある態度で接する様子が多々見られた。中学生にとっては、小学生に分かりやすく指導するために技能やルールを整理する必要がある、相手の立場を考えながら伝える力やリーダーシップを育む機会となった。一方で小学生にとっては、年上の先輩から励ましや助言を受けることで安心感を得ながら技能を高めることができ、主体的に学ぶ姿勢も生まれた。こうして合同授業は、両学年が互いに刺激を受け合いながら成長する、貴重な学びの場となっている。

3. 小小連携について

2年生の生活科では、社会見学で「サケのふるさと千歳水族館」を訪問した際のまとめ場面を交流している。共通の経験があるため、発表者の伝えたいことがよくわかり、両校のまとめ方や発表の工夫について学ぶことができています。



3年生の総合的な学習の時間では、校区内を流れる「輪厚川」や自然豊かな「レクの森」で生き物探しを中心に自然に触れ合う活動を一緒に行っている。輪厚川散策は、活動場所の限定があり一緒に活動できないため、道具をシェアする等、協力して取り組んでいる。2・3年生を中心に「横のつながり」を大切にしたい小小連携事業を行っている。



(文責：東部中学校 坪川将洋・東部小学校 佐瀬 智之)